

八甲田山の火山活動解説資料（令和8年1月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穩に経過しており、噴火の兆候は認められません。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1）

大川原監視カメラ及び地獄沼監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図2）

火山性地震は少ない状態で経過しました。低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図3、図5）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和8年2月分）は令和8年3月9日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokujii.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

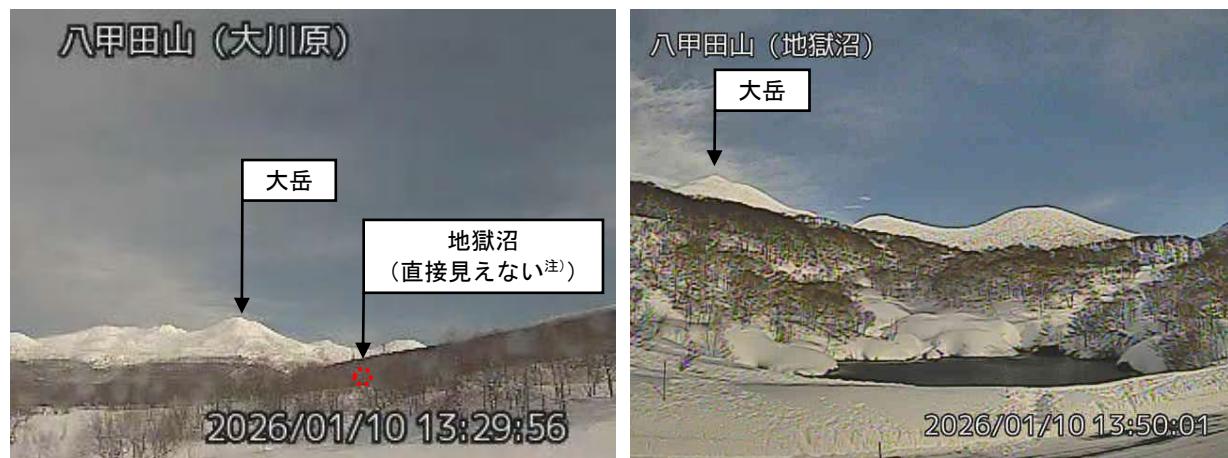


図1 八甲田山 山頂部及び地獄沼周辺の状況

- ・左図：大川原監視カメラ（大岳の西南西約6km）の映像（1月10日）です。
- ・右図：地獄沼監視カメラ（地獄沼の西約100m）の映像（1月10日）です。

注）地獄沼から噴気が噴出した場合、大川原監視カメラでは高さ100m以上のときに観測されます。
赤破線が地獄沼の位置を示します。

噴気は認められませんでした。

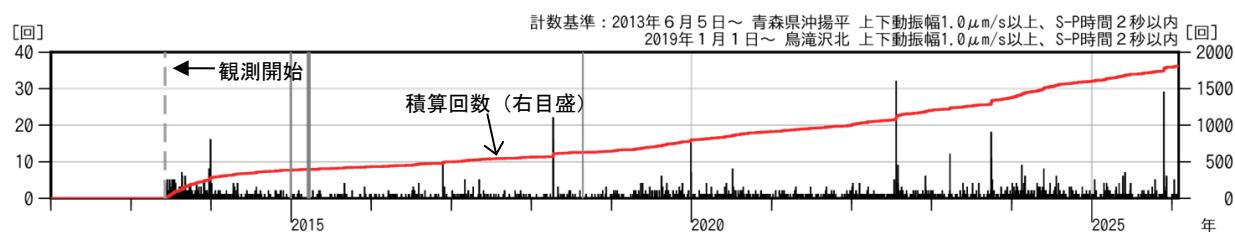


図2 八甲田山 日別地震回数（2013年6月～2026年1月）

- ・灰色部分は欠測を表しています。

火山性地震は少ない状態で経過しました。低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

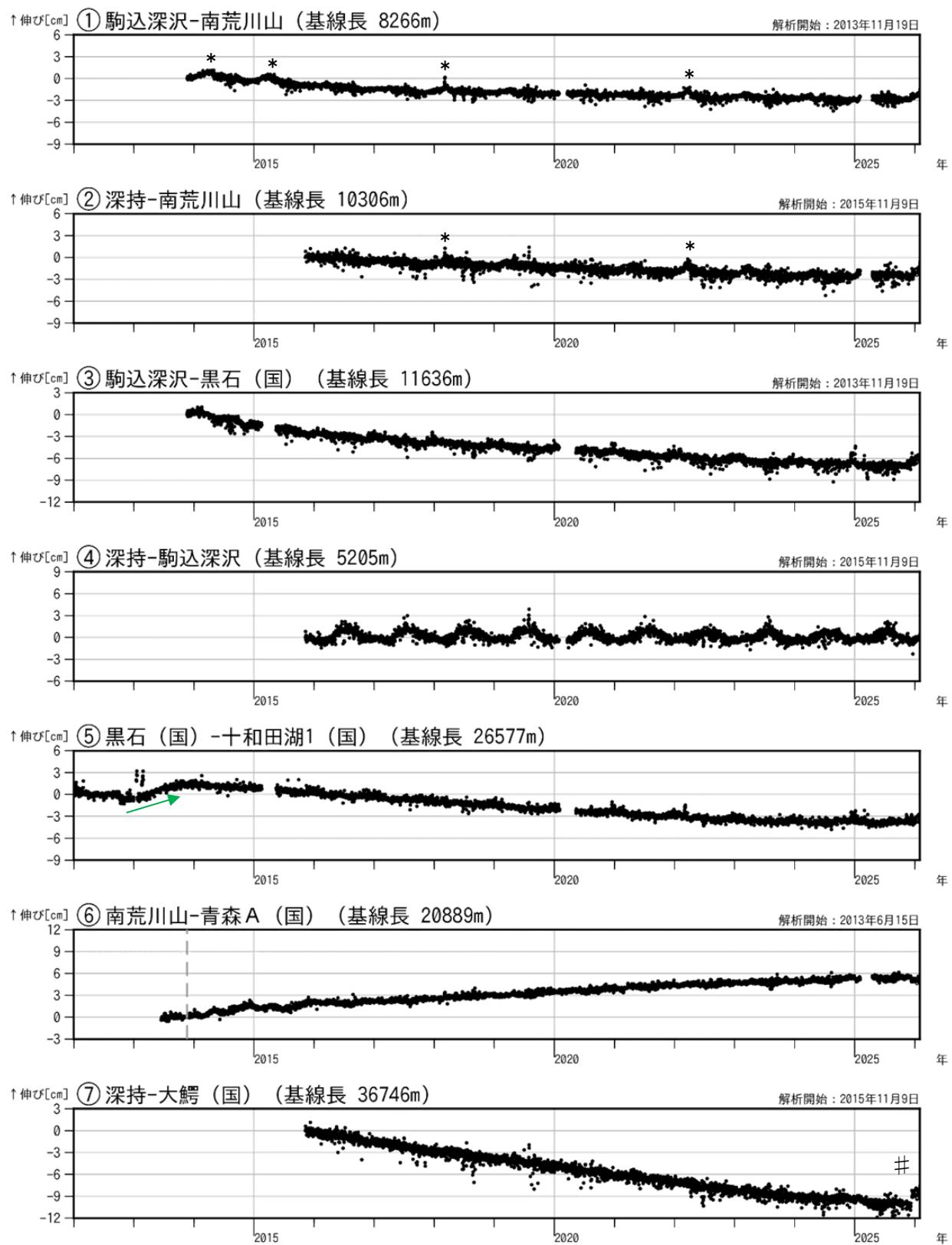


図3 八甲田山 GNSS 基線長変化図（2012年1月～2026年1月）

- ①～⑦は図5のGNSS基線①～⑦に対応しています。
- （国）は国土地理院の観測点を示します。
- ⑥2013年11月に南荒川山観測点の機器更新及び移設、解析方法の変更を行いました（破線）。
- 2025年12月8日の青森県東方沖の地震に伴うステップ状の変化が、「#」を含め、一部基線で認められます。
- * : 南荒川山観測点における積雪等の影響による変化とみられ、火山活動に起因するものではないと考えられます。

2013年の地震活動活発化の際に、山体のわずかな膨張を示す変化（緑矢印）が観測されました。現在火山活動による変化は認められていません。

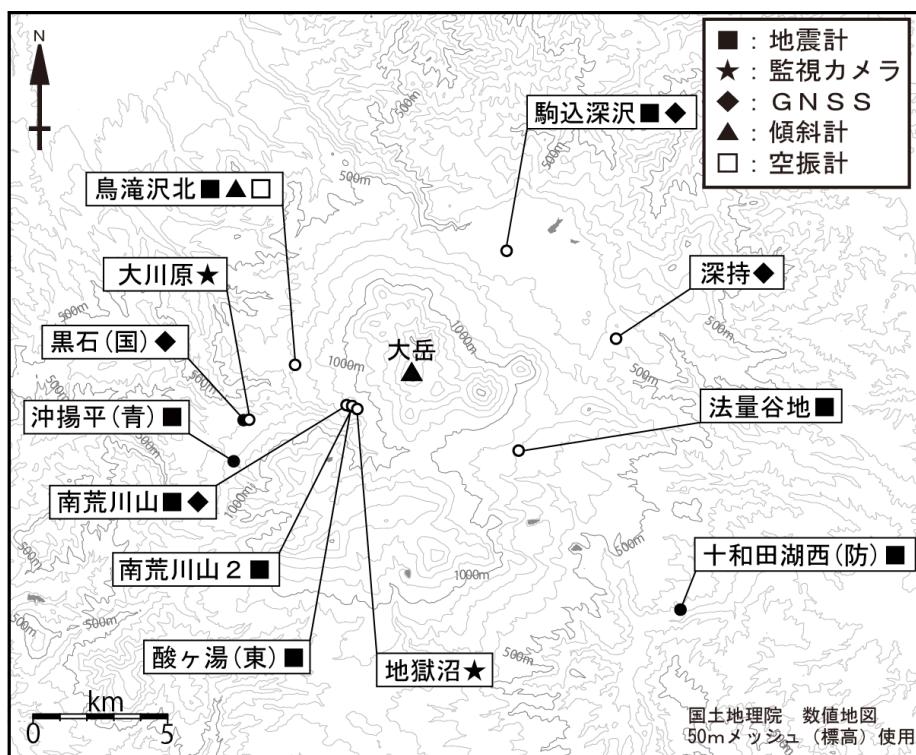


図4 八甲田山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所
(青)：青森県

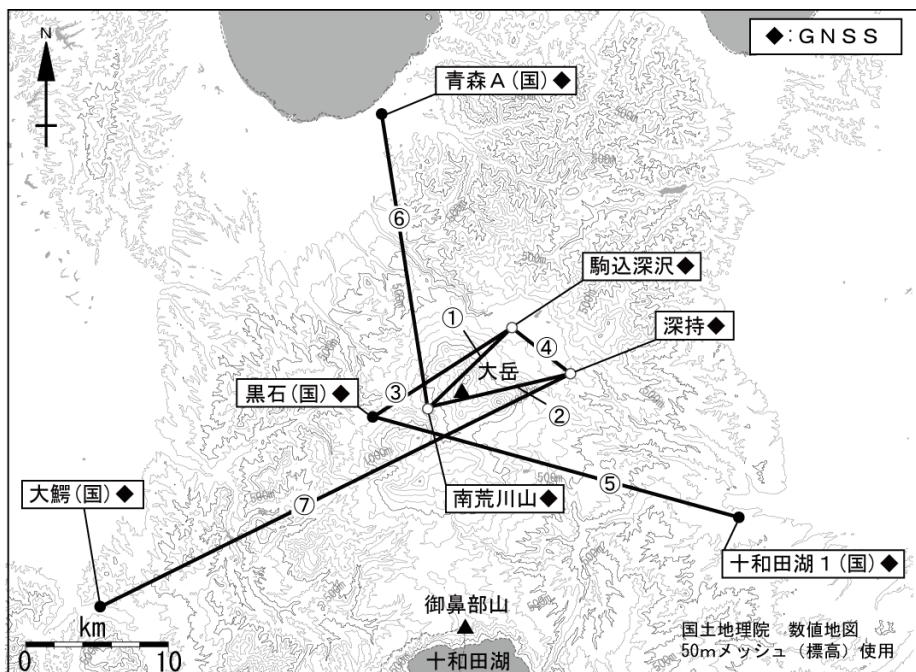


図5 八甲田山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院